

## 《小学生の部》

優秀作（国務大臣・国家公安委員会委員長賞）

群馬県太田市立強戸小学校

4年 尾内 美玲

## 命を守るジュニアシート

きょ年の夏休み中、テレビから悲しいニュースが流れてきた。車とバスが正面しょうとつし、後ろの席に乗っていた5才と7才の姉妹が亡くなったというニュースだった。その中で一番おどろいたのは、姉妹はシートベルトを着用していたのに、事故のしょうげきでしめつけられてしまったのではないか、ということだった。

事故にあってしまった女の子と年が近いこともあり、「もし、この車に乗っていたのが私だったら…」と思わず考えた。二人ともシートベルトをしていたのにどうして命を落としてしまったのか、とうとい命が失われてしまったのか、ふしぎでたまらなかった。

私は気になり、その事故のことを調べてみると、ジュニアシートを使っていなかった事が判明した。身長が百四十センチ※にみたない子どもがジュニアシートなしでシートベルトをすると、ベルトが首やおなかにくいこんでしまい、強いしょうげきを受けた時に亡くなってしまうリスクがあると初めて知った。命を守るためのシートベルトが、ぎゃくにきょうきになってしまう事を知り、こわい気持ちと同時に、姉妹を想うとむねがぎゅっとなった。

その時私は、あの出来事を思い出した。

「え〜、まだそんなの使ってるの？」

ある日、友達を車でむかえに行った時に、私がジュニアシートにすわっているすがたを見て、そう言われた。私は顔がカッと熱くなって、すごくはずかしくなった。もう小学生なのに、なんだか自分がとても小さい子どものように思えて、いやな気持ちになった。

家に帰ってから、私は母につぶやいた。

「もうジュニアシートはやめたいな。私も大きくなったからいらないよ。」

すると母は、私をだきしめてから、しんけんまなざしでこう言った。

「これは、あなたの命を守るための大切な物よ。だから、同じ目線でお話ができるようになるまで、おねがいだから使おうね。」

その時の私は、母の言葉の本当の意味がまだよくわかっていなかった。

母が「命を守るため」や「同じ目線」と言っていた意味が今になってようやくわかった。いつも私がすわっているジュニアシートは、万が一の事故にあった時に、命づなのシート

ベルトを大人と同じように、きちんと正しく固定できる体かくなるまで必要な、とても大切なそんざいなのだと理かいたきたのだ。

今では、からかわれては恥ずかしいと思っていたジュニアシートは、決して恥ずかしい物ではなく、命を守ってくれる物だとむねをはって周りのみんなにも伝えたいと思う。

そのためにも、ジュニアシートを使う事が少しだけ面どうだなとか、周りの目が気になるなという気持ちだけで、大切な命をきけんにさらさないでほしいとよびかけていきたい。

---

※ 現在、日本自動車工業会や日本自動車連盟においては、6歳以上でもチャイルドシートの着用を推奨する体格の目安を、身長 150 センチメートル未満とされています。